**楊柳観音堂**

このお堂は、ここに安置されている楊柳観音にちなんで名付けられた。 この楊柳観音は、しばしば慈悲の女神と呼ばれる観音菩薩のお姿の一つである。 このお姿の観音菩薩は柳の枝をお持ちになり、これで病気を治し、追い払うと言われている。 実際、枝垂れ柳の葉と樹皮にはサリチル酸が含まれており、これにはいくつかの薬効成分があり、アスピリンの初期の製造にも使用されていた。

人々はこの観音堂に来て、安産を祈る。 建物の前にある木製の塊は、将棋の駒のように見える。 香車は西洋のチェスのルークのように、後戻りできず直線で前にしか動くことができない。 安産と人生の成功を期待して、将棋の駒がここに置かれたのである。

建物の彫刻には、カップルと親子関係が描かれている。 扉の上には一対の鴨が、建物の両側には雄と雌の楽園の鳥が。 鴛鴦と極楽を飛び回る鳥たちは、交尾習性において一夫一婦制で知られており、カップルと子育てを象徴している。

仏教の仏を祀るお堂の前に神道鳥居を置くことは非常に珍しいことである。この組み合わせは、神道と仏教の神仏混交が日本で一般的だった時代の名残の一つである。